



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2011.9

No. 329

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



ツミ観察日記—カラスの古巣でツミが繁殖！—

浅見 徹(さいたま市)

3年前からツミが通勤経路で営巣しています。今年は、通常の経路より近いところで営巣し、ついに巣立ちに立ち会うことができました。1回当たり5～10分間の短い観察ですが、回数でカバーできました。

1. 出会い

毎朝、自宅から駅まで20～30分の道のりを、歩いて通っています。健康のためもありますが、四季折々の木々の変化、野鳥の様子を見るのが楽しみです。

3月23日(水):ケヤキの新芽の様子を見上げながら、のんびり歩いていると、突然背後に風圧を感じたと思ったら、頭に一発蹴りを喰らいました。ハシボソガラスが繁殖期に入ったようです。野鳥をこよなく愛すこの私が、野鳥に襲われるとは！

意気消沈して信号待ちをしていると、向かい側のケヤキ並木の先から、キョーキョー、キョッキョッキョウ……。一声だけでしたが、間違いなくツミの鳴き声でした。この一声で、元気回復。翌日から毎朝のツミ探しが始まりました。

2. 交尾行動

ツミとの出会いがないまま、ケヤキの若葉が広がり始めた4月11日(月)、やっと視認できました。キョッキョッキョウ……。という柔らかな声を頼りに梢を探すと、♀1羽！そこへ、直ぐに♂が飛来して、交尾を数回。邪魔してはいけないので、早々に立ち去り、駅へ向かいました。

3. これがツミの巣？！

4月13日(水):先日ツミを見た辺りに、オナガの群が集結し、賑やかにしています。緊迫した感じではなく、のんびりと仲間同士で鳴き交わすという感じです。ツミの気配は、なし。

4月14日(木):同じ木に、少しはなれて♂♀。メスの胸には縦斑が残っているようです。若い個体なのか？繁殖が上手くい



母親です。獲物を調理し、巣で待つヒナの元へ行きました。胸の縦斑が残っているように見えます。(浅見 徹)

くのか？心配になってきました。その後も何度か、近辺で鳴き声を聞いたり、姿を見かけたりするのですが、「巣は何処に?」、「はたして、営巣しているのだろうか?」と気をもむ日々が続きました。

4月21日(木):この朝も交尾行動が見られました。その直後、♀が枯れ枝を折り取り、大ケヤキの太枝の又に掛けられた、見るからに粗雑なカラスの古巣に入り込みました。巣材は枯枝主体で、針金ハンガー補強入りです。実は、一昨年(2009年)の繁殖期も、ツミが飛び込む木を探しても針金ハンガー入りのカラスの古巣しか見付からず、営巣を確認できないままに終わってしまいました。2008年に巣立ちを確認できた巣は、いかにもツミらしい物で、針金ハンガーは使っていませんでした。

私からの連絡で巣を確認した兄は、「どう見てもカラスの古巣だよ」との見解。兄のフィールドで過去に営巣を続けていたツミの巣は、枯枝を組み上げ、針葉樹の青葉で飾り付けた、それは美しい巣でした。カラスの古巣をツミが再利用? 半信半疑のまま、朝の観察を続けました。

4.抱卵

営巣木近辺の地面を探すと、時々、小鳥(多分スズメ)の羽根が散乱しているのが観察されました。

5月6日(金)：♂が獲物をぶら下げて飛来。直ぐに、何処からかメスが来て、獲物を受け取り、羽根をむしり始めました。その後も何度か、同じ木の下に散乱した小鳥の羽根やツミのものらしい白い糞が見られました。獲物の受け渡し場所は決まっているようです。しばらくして、♀は例のカラスの古巣に入って視界から消えました。中で抱卵していることを期待して、毎朝の観察が続きました。

5.雛化そして巣立ち

毎朝の日課を続けてもツミの気配のない日が続きました。営巣木と信じるケヤキの周りにはオナガが群れていることが多く、キジバトがノンビリ羽を休めていることもまれではありませんでした。「やはりあれは、ただのカラスの古巣。ツミが使うなんて聞いたことない」と諦めかけた頃……

6月3日(金)：久々に♀が例の巣に飛び込むのを目撃しました。巣に入る前に、ケヤキの枝先で葉の付いた小枝をむしり取ったりしていたのですが、羽毛が乱れていて、心なしかやつれて見えました。♂が見えないのが心配です。

6月9日(木)：例の巣の中で、白い羽毛のある羽をバタバタと動かすヒナらしき姿が、一瞬だけ見えました。♀親が、見張りをするように20mほど離れた枝にじっと止まっていました。

6月15日(水)：ヒナが見えた！尻を巣から突き出しピューと糞。尾羽に茶色の部分があり、顔、頭、胸はまだ白い羽毛に覆われていました。そこへ♀親が飛来しましたが直ぐに飛び出し、オナガと争いを始めました。そこへ♂親も飛来して加勢。久々に♂の姿を見ることができました。

6月16日(木)：運良く、♂が獲物を持って来て♀に受け渡し、♀が調理してヒナに給餌するところまで観察できました。♀

が去った後、巣から伸び上がるヒナの姿もしっかり見えました。

6月19日(日)：この日は休日。初めてじっくり1時間ほど観察しました。初めは親もヒナも気配なしでしたが、待つこと30分弱、鳴き交わす親鳥の声に続いて♀が飛来。♂から獲物を受け取った♀が調理して巣に運んだところまでは木曜日と同じでしたが、しばらくして、ヒナがバタバタと羽ばたき、巣から飛び出しました。巣から離れて枝伝いに移動し、葉陰に隠れてしまいました。はっきり確認できませんが、2羽以上出たようです。ツミのヒナは一度巣から出てもまた巣に戻ったりして、少しずつ行動範囲を広げると聞きました。「無事に成長して、来年もまた楽しませてくれよ！」。



巣立ち後の巣。どう見てもカラスの巣です。
(浅見 徹)

6.後日談

7月2日(土)：複数のツミが鳴き交わしている声が聞こえました。ツミの家族？

7月29日(金)：オナガにチョッカイを出すツミを見かけました。どう見てもオナガに緊迫感はなく、ツミを軽くあしらっている風。今年巣立ったツミの若鳥だったのでは？「元気にたくましく育てよ！」。

都市近郊にツミが繁殖できる環境が残っているって素晴らしいことです。この環境がいつまでも続くことを願っています。

冒頭にもあるように、この観察のほとんどは通勤途中の短時間のものです。繁殖に影響を与えないように十分注意したことは言うまでもありません。

2011年冬 カモ科調査

日本野鳥の会埼玉研究部

2010/2011年冬は、普通の寒さの冬で、本調査が実施された2011年1月8日から10日は快晴の日が続きました。

ハクチョウは給餌中止により半減、オシドリは持ち直し、トモエガモも持ち直しました。

県内37カ所、延べ53名のご協力に感謝します。(小荷田行男)

調査の結果、総数は例年より約20%減、コ

調査地	入間川	荒川						古利根川	大吉調整池	利根川	渡良瀬遊水地	狭山湖	新河岸川	新河岸川	百穴湖	八丁湖	森林公園 武蔵丘陵	大沼公園			
		豊水橋 新富士見橋	荒川鉄橋 戸田橋	(荒川第一調整池) 道満	南畑排水機場 びん沼川	荒川大橋 明戸堰	玉淀河原												玉淀ダム	赤橋 堂面橋	池全部
地域	狭山市	戸田市	川口市	戸田市	さいたま市 富士見市	熊谷市	寄居町	寄居町	松伏町	越谷市	越谷市	本庄市	加須市	所沢市	川越市	ふじみ野市	吉見町	吉見町	滑川町	熊谷市	
コハクチョウ					12																
オシドリ								39													
マガモ	4		9	8				21	10	6	71	587	586	1	32	33	181	372	1		
カルガモ	3	4	33	29			9	2	10	8	74	327	7	70	12	25		15	27		
コガモ	21	7	37	37			10		12	6		51	164	75	19	52		6	139	2	
トモエガモ													31							3	
ヨシガモ				24							27					6					
オカヨシガモ											7	4				3				10	
ヒドリガモ	1	12		23						54		100		389	12					28	
オナガガモ				8			23	43		2	28	41	1							7	
ハシビロガモ				2	30							2								32	
ホシハジロ					6							5	67			5					
キンクロハジロ			11	1					4			1	2				6	2	4		
ホオジロガモ				1		10					1		2								
ミコアイサ												39									
カワアイサ												1									
カモsp												2088									
種数	4	3	8	7	2	3	4	3	6	6	11	8	6	5	5	3	7	5			
合計	29	23	125	134	22	42	105	32	80	208	3246	860	539	81	121	189	550	90			

川越水上公園	県立農林公園	さきたま古墳	白幡沼	見沼自然公園池	柳瀬川	元荒川	元荒川	宝蔵寺沼	川島町 越辺川	大宮公園ポト池	大宮第3公園	大宮公園	さいたま市芝川	さいたま市芝川	見沼代用水東縁	見沼代用水西縁	レイクタウン湖	綾瀬川	合 計	
池全部	芳沼	古墳の池全部	沼全部	池全部	富士見橋 栄橋	城北大橋 水管橋	今宮橋 清掃局	池全部	八幡団地前	池全部	池全部	池全部	中川橋 八丁堤	八丁堤 荒川	七里公園 加田屋橋	七里公園 山口橋	旭橋 附島橋	調整域	伝右川調整池	
川越市	深谷市	行田市	さいたま市	さいたま市	志木市	富士見市	さいたま市	蓮田市	白岡町	羽生市	川島町	さいたま市	さいたま市	さいたま市	川口市	さいたま市	さいたま市	越谷市	さいたま市	
																				92
																				40
9	115	82			3	2	35	20					24		2	4				2222
71	133	233		33	24	77	164	333		4	25	177	46	91	116	188				2370
83	168	86		10	73	146	244	121	13		36	192	70	54	6	7	13	45		2005
																				34
																				91
	5												20							55
76				7	31	64	3					4	17		20	261				1142
	93			2	139	48	37			98	46	6	17	3	4				2	680
				1			4					6	13	3						62
																				207
	121																			416
	318			6						45	4	8	4							14
																				40
																				1
4	7	4		4	4	5	4	6	5	4	3	6	9	6	5	4				2092
239	953	402	10	189	179	289	487	493	192	95	136	481	400	153	130	195	13	51	3	11563



野鳥情報

さいたま市見沼区猿花キャンプ場 ◇4月24日～5月13日、センダイムシクイ確認。最大個体数、3羽(5月13日)。4月29日、シロハラ4羽+(終認)、エゾムシクイ1羽。オオルリ1羽さえずる。オオルリは♂の姿を確認。5月6日～5月13日、キビタキ確認。最大個体数2羽+(5月11日)。5月6日、シメ6羽+。5月10日、コルリ1羽、さえずり。アカハラ♀1羽、シメ1羽(終認)。5月11日、クロジ♀1羽、藪からふいに飛び出し、周囲を眺め回して、また藪へ。5月13日、メボソムシクイさえずり(小林みどり)。

さいたま市岩槻文化公園 ◇4月24日、マヒワの群れ約30羽、クヌギの花に来ていた。なき交わす声が賑やか。他にマヒワ5羽の群れ。上空にゴイサギの群れ約50羽出現。元荒川沿いに飛ぶ。何度も行ったり来たりを繰り返していた。ウグイスのさえずり、エナガの声。4月29日、エナガ幼鳥3～4羽、枝移り。目の周りに赤い縁取りがあり、かわいい幼い顔をしていた。近くに成鳥も1羽、親鳥だろう。5月4日午前7時頃、キビタキ♂4羽+、カメラマンのいる所で1羽の♂を観察していると少し離れた所2ヶ所でキビタキのさえずり、更に道路反対側からもさえずりが聞こえてくる。姿もけっこう楽しめた。9時を過ぎたら、さえずりがとまった。同日午後3時頃、コムクドリ♂4羽(藤原寛治)。

蓮田市西城沼公園とその周辺 ◇4月26日、ツミ成鳥♀がケヤキの屋敷林に。紡錘型の体型が格好良い。ナラ林でカケスが2羽枝移り。林床ではツグミ5羽とシロハラ1羽が落ち葉をひっくり返して餌探し。カサコソという音が響いていた。5月5日、50羽士のシメがナラの新芽を食べていた。5月6日、キビタキの声がナラ林から聞こえた。今季初。シジュウカラが数羽、ナンキンハ

ゼの白い実を食べていた。油がのって美味しいのだろう。5月9日、ナラ林でセンダイムシクイの声。数羽いるようだ。ここで今季初。西沼で2羽のコアジサシが繰り返しダイビング。5月16日、3羽のオナガが赤く熟したサクラamboを美味そうに食べていた。ミズキの枝でセグロセキレイが大きな声でさえずっていた。大きなツバメだなど思っていたら、ツミだった(長嶋宏之)。

さいたま市桜区大久保農耕地 ◇4月28日、B区でチュウシャクシギ4羽。目先の青いダイサギ夏羽1羽。アマサギ夏羽1羽。5月2日、As区でムナグロ100羽士。キアシシギ6羽、キョウジョシギ2羽。5月4日、A区でアオアシシギ4羽、キアシシギ1羽(海老原美夫)。

さいたま市見沼区見沼自然公園 ◇4月28日、公園脇の見沼代用水東縁沿いのサクラの木にコムクドリ♂1羽、♀2羽、不明2羽の計5羽(小林みどり)。

吉見町八丁湖公園 ◇4月29日、鳴き声を頼りにセンダイムシクイの姿を探す。運良く頭中央まで確認。個体数は少なくない。今季初認。キビタキ♂1羽、こちらは今季初認。マヒワ♂♀数羽、クロジ♂1羽、アカハラ1羽。カケス数羽。サンショウクイの声を聞く。これは珍しい。姿は見られず。アオゲラもよく鳴いていた(榎本秀和)。

さいたま市見沼区染谷 ◇4月30日、キビタキ1羽、さえずる(小林みどり)。

さいたま市見沼区大谷 ◇4月30日、ホテルの里でセンダイムシクイ1羽とオオルリ1羽、さえずる(小林みどり)。

深谷市本田白鳥飛来地 ◇4月30日、キアシシギ4羽、トウネン1羽、オジロトウネン5羽、タシギ2羽、スズガモ♀1羽、エゾムシクイ1羽、ヒレンジャク1羽。コハクチョウ、残り4羽。5月6日、ヒレンジャク約20羽、キビタキ♂1羽、クイナ1羽、キアシシギ14羽、オジロトウネン5羽。コハクチョウ、残り若鳥2羽。このコハクチョウは5月9日に旅立ったとのこと。5月15日、コサメビタキ1羽、キビタキ♂1羽(鈴木敬)。

さいたま市緑区高畑 ◇4月30日、オオヨシキリの声を今季初めて聞く(藤原寛治)。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇5月2日、野鳥園南でクロジ♂3羽、♀1羽。5月4日、子供の森で水にぬれたコミミズク1羽。2時間以上枝から動かず、羽が乾いてから飛び去った(海老原美夫)。

さいたま市見沼区大和田緑地 ◇5月3日、エゾムシクイ1羽さえずる。キビタキ♂1羽、通常のさえずりの声と同時に高い声を出す。いわば“二人二部合唱”。こんな初めて聞いた! 5月9日、エゾムシクイ1羽、センダイムシクイ少なくとも2羽、キビタキ♂少なくとも3羽、それぞれさえずり(小林みどり)。

蓮田市関山 ◇5月4日、アオバズクの声を聞く。今季初認(河野順子)。◇5月5日午後8時頃、アオバズクの声を聞く(細田敦史)。

杉戸町祭場 北緯36.0226° 東経139.7738°
◇5月4日、コシャクシギ1羽がムナグロ20羽土と畔で羽を休めていた。田んぼ1枚離れた畔に、コアジサシ2羽が降りていた(長嶋宏之)。

桶川市下日出谷氷川神社南の調整池 ◇5月5日午前7時、オオヨシキリが2ヶ所のヤナギの木で「ギョギョシ ギョギョシ」とさえずっていた(立岩恒久)。

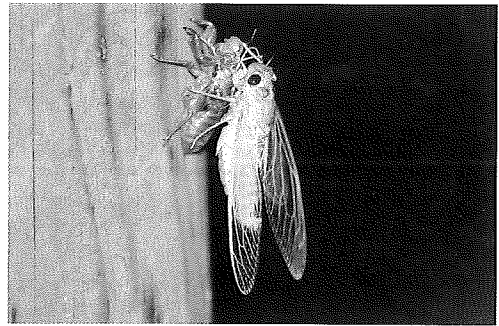
さいたま市岩槻区掛 ◇5月8日午前中、チュウシャクシギ1羽、キアシシギ4羽(本多己秀・久文字)。

桶川市泉2丁目 ◇5月9日午前6時、理化学の森でアカハラが甲高い声で「キョロンキョロン」とさえずっていた(立岩恒久)。

桶川市日出谷小学校 ◇5月9日午前6時15分~6時45分、小学校西側の農家屋敷林でキビタキが長い間「シーチャン ポンポコリン」とさえずっていた(立岩恒久)。

さいたま市岩槻区元荒川 ◇5月9日、末田須賀堰でコアジサシ2羽、プイにとまって休息(小林みどり)。

加須市加須はなさき公園 ◇5月9日、10日、キビタキの姿を見た(中里裕一)。◇5月19日、3羽のチョウゲンボウが同時に舞い上



ツクツクボウシ(藤原寛治)

った。更に2羽が下の樹や電柱にとまっていた。近くで巣立ったのだろうか? 池で2羽のコアジサシがダイビング。アシ原でオオヨシキリが大合唱。今年は数が多い。5月29日、植物園の方からカッコウの声が聞こえた(長嶋宏之)。

桶川市若宮1丁目 ◇5月10日午前6時30分~7時、自宅の北側、桜の木でキビタキが「シーチャン コリコリコリ」とさえずりと地鳴きで長い間枝から枝へ飛びながら鳴いていた。隣にはヤマボウシの白い花が咲いていた(立岩恒久)。

坂戸市浅羽ビオトープ ◇5月11日午前8時40分、ビオトープ内水路、万葉橋下流右岸の高木の枝に、美声でさえずるオオルリ♂1羽。当地では自己初観察です。他にキビタキ、オオヨシキリ、高麗川の中洲にコチドリと夏鳥が見られ、冬鳥のシメ、コガモもまだいた(増尾隆)。

さいたま市緑区大門 ◇5月13日、コガモ♂1羽、ハシビロガモ♂1羽♀1羽、バン2羽、オオバン1羽(小林みどり)。

さいたま市岩槻区野孫 ◇5月13日、アマサギ夏羽3羽、ケリ成鳥2羽、近づいたカメラマンを威嚇するように鳴きながら飛びまわる。少し離れたところに、じっと動かない成鳥1羽、その近くに幼鳥1羽(小林みどり)。

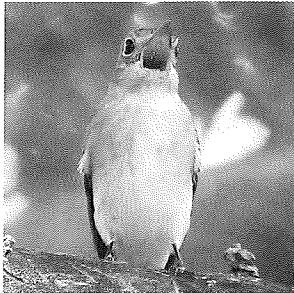
表紙の写真

スズメ目ゴジュウカラ科ゴジュウカラ属ゴジュウカラ(石絵)

自分で撮った写真から描き起こすことにこだわっています。 柴田尚紀(上尾市)



行事案内



コサメビタキ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちがあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

リーダー研修会(要予約)

当会は、探鳥会の運営をはじめ全ての会の活動を会員のボランティアで行っています。あなたの新鮮な力を活かしてください。今日までの足跡、活動の現況、リーダーの役割などを学び、皆で意見交換などをします。

日時：9月4日(日) 9:00~17:00

場所：埼玉県自然学習センター

北本市荒井 5-200 Tel:048-593-2891

交通：JR 高崎線北本駅西口下車。北里研究所メディカルセンター病院行き 8:00、8:31 発バスで約 15 分、自然観察公園前下車。または石戸宿経由同病院行きバス 8:16 発で病院下車。



昨年の研修会

藤掛代表と 9 人の新人リーダーたち

予定：9 時受付開始、9 時 30 分研修開始

午前：「探鳥会でのリスク管理」

昼食：普及部で用意します。

午後：自己紹介、座学。

5 時解散後、北本駅前では有志懇親会（会費 3,000 円の予定）。

参加：リーダー推薦の他、自薦の方は、氏名、住所、電話番号、懇親会参加の有無を記入し、下記に往復ハガキでお申込みください。現リーダーもメールかハガキで必ず事前にお申込みください。当日受付はできません。締切 8 月 27 日必着。

玉井正晴

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：9月11日(日)

集合：午前 9 時 30 分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:51 発に乗車。

担当：森本、新井(巖)、鶯飼、大澤、倉崎、栗原、高橋(ふ)、千島、飛田、藤田(裕)

見どころ：まだまだ暑い大麻生ですが、そのなかに秋を探します。モズの高鳴き、旅の途中のショウドウツバメ、いくつか見つけられるでしょうか。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：9月17日(土)

会場：会事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：9月18日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、青木、倉林、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、増田、宇野澤、須崎、船木、畠山、柴野

見どころ：先月に続き「三室探鳥会とは」を考えます。初心者の方を黄色いリボンで迎えます。常連の子供たちもいて、いつものまにかベテランの域に達しています。年配者は鳥談義も楽しみに集まっています。秋の気配の三室へどうぞ。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：9月18日（日）

集合：午前9時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越8:15→坂戸で越生線乗り換え8:38発。または寄居7:38→小川町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR川越線大宮7:35→川越で東武東上線乗り換え。

担当：山口、青山、久保田、志村、杉原、高草木、高橋(優)、林、藤掛、藤澤、増尾、持丸

見どころ：留鳥に加え、残っている夏鳥、渡りの途中の鳥などを探します。9月はサシバも飛んでくれます。秋の草花や昆虫なども楽しみましょう。

長野県・白樺峠と乗鞍探鳥会 (要予約)

期日：9月18日（日）～19日（月・祝）
前月号でお知らせしました。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：9月19日（月・祝）

集合：午前9時30分、松伏記念公園北側駐車場。

交通：東武伊勢崎線北越谷駅東口、1番バ



白樺峠でタカを待つ

ス乗り場から8:57発エローラ行きで「松伏高校前」下車。

担当：田邊、橋口、植平、大塚、吉岡(明)、榎本(建)、野村(弘)、野村(修)、森下、進士、佐野、佐藤

見どころ：ここは春と秋、年2回の探鳥会です。前は東日本大震災のため中止となり、1年ぶりの探鳥会です。気の早いカモたちが来ています。エクリプスの識別に挑戦してみましょう。

シギ・チドリ類県内調査

期日：9月19日（月・祝）

春と秋の2回、当会独自にシギ・チドリ類の調査を行っています。多くの会員の参加・ご協力をお願いいたします。

◆ 大久保農耕地（さいたま市）

集合：午前9時30分大久保浄水場の北西角近くの土手の上、グラウンド入口。

バス停「やつしまニュータウン」から土手上の道を歩いて来る場合、浄水場付近で工事のため迂回しなければならず、いつもより時間がかかります。ご注意ください。

担当：石井 智

解散は昼頃の予定。調査のため参加費は不要です。雨天でも行きます。また、秋はシギ・チドリが大変少ないこともあります。

タカの渡り調査

半日空を眺めているだけで貴重なデータが得られます。タカ類についての知識も増えます。初めての方もお気軽にどうぞ。

雨天（小雨でも）中止。

調査のため参加費は不要です。

調査時間内のご都合のよいときに、調査地点にお出かけください。

調査地点：**天覧山展望台（飯能市）**

調査日：**9月25日（日）**

調査時間：午前8時から正午まで。

交通：西武池袋線飯能駅から徒歩約30分。

担当：佐久間

近くに水洗トイレあります。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：**9月25日（日）**

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越 8:44 発→狭山市 8:53 着、または所沢 8:38 発→狭山市 8:50 着。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村（祐）、山本（真）、久保田、石光、山口、星、水谷、間正

見どころ：暑かった夏が終わると、これからは少しずつ鳥たちが増えてきます。夏の間でも25種から30種ぐらいの鳥たちが見られました。それに秋の草花もきれいですよ。

長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：**10月22日（土）～23日（日）**

集合：22日午前9時、長野駅コンコース新幹線改札口を出て右側。

交通：長野新幹線「あさま503号」（東京6:52→大宮7:18→熊谷7:31→高崎7:50→長野8:44着）、または「あさま505号」（東京7:24→大宮7:48→熊谷・高崎通過→長野8:49着）。

費用：10,500円の予定（1泊3食、現地バス代、保険料など）。過不足の場合は当日

庭の鳥たち

ブロングマン・ウイリアムズ
（ふじみ野市）

月の満ち欠けは、生物移動と関係があるかもしれません。

アオジは自宅の庭に、2年連続、2太陰月（8週間）来ました。最初に見た日と最後に見た日は、同じ月相でした。毎日、つがいが庭に来ました。

♂は同時に2羽いると、数日以内に移動しました。しかし、数日後1羽来ましたので、自宅の庭は、アオジの渡り経路に位置しているかもしれません。

しばらくすると、以前来たと思われるつがいが4月初めに戻って来、桜の満開まで毎日いました。

音との関係もあるかもしれません。

ヒヨドリは、飛行機の音が聞こえると緊張しますが、ヘリコプターを無視します。

アオジは、飛行機やヘリコプターの音が聞こえると緊張します。たまにヒヨドリと同時に緊張します。

キジバトは、騒々しい選挙等のキャンペーンカーが近くなると緊張し、近くの道路を通ると飛びます。

精算します。集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：30名（先着順、埼玉会員優先）。

申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、喫煙の有無を明記して、菱沼一充

まで、9月1日消印から有効

受付とします。

担当：菱沼（一）、藤掛、中里

見どころ：昨年は数羽のムギマキに出会うことが出来ました。今年も期待しましょう。もちろん紅葉真っ盛り、新そばや秋の味覚も楽しみです。

ご注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室のご用意はできません。



行事報告

4月17日(日) さいたま市 三室地区

参加: 66名 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ
コガモ ヒドリガモ ハシビロガモ サシバ キ
ジ バン コチドリ イソシギ タシギ キジバ
ト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセ
キレイ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ
メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ
スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハ
シブトガラス (34種) (番外: ドバト) 東日本大震
災で中止していた探鳥会が参加者の黙祷の後に再
開した。いつもと何かが違う探鳥会。芝川の土手
に咲く満開の菜の花に似て、リーダーも参加者も
にこやかで、元気があった。カワセミが飛びかい、
キジの鳴き声が聞こえた。こちらも元気になって、
復興と共に支える探鳥会になった。(楠見邦博)

4月23日(土) 東松山市 物見山

雨のため中止。(中村豊己)

4月24日(日) 春日部市 内牧公園

参加: 25名 天気: 快晴

ダイサギ チュウサギ カルガモ キジ タシギ
キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ
ビンズイ ヒヨドリ モズ ツグミ セッカ
エナガ シジュウカラ メジロ アオジ カワラ
ヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ
ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 雨上が
りの新緑と快晴に恵まれて、ダイサギ(冬羽)とチ
ュウサギ(夏羽)の識別、キジの雄雌の羽色、シメ
の鉛色の嘴、久々のビンズイ出現(2001年4月29
日以来、2回目)を楽しんで頂けた。(石川敏男)

4月24日(日) さいたま市 秋ヶ瀬公園

参加: 64名 天気: 晴

カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ
コガモ トビ ノスリ チョウゲンボウ コジュ
ケイ キジ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ
ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ

シロハラ ツグミ ウグイス センダイムシクイ
セッカ エナガ シジュウカラ メジロ ホオジ
ロ アオジ カワラヒワ マヒワ シメ スズメ
ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36
種) (番外: ガビチョウ、ソウシチョウ、ドバト)
まず鴨川排水機場でカモ3種、カワウ、サギ2種。
上空にノスリ。チョウゲンボウが横切る。中土手
橋を渡り、土手の上へ。チョウゲンボウのホバリ
ングをしばし楽しみ土手下へ。田んぼでは、キジ
の声、ホオジロ、カワラヒワ。水路に沿って回り、
中土手のすそを通り、子供の森へ。中を左回りに
歩く。マヒワ、シメ、センダイムシクイ、久しぶ
りにコジュケイの声。まだ渡りの鳥は少ないよう
だ。そんな思いで解散地点に。(倉林宗太郎)

4月29日(金、休) シギ・チドリ類調査

ボランティア: 21名

相原修一、相原友江、浅見徹、安部光子、石井智、
石塚奏、石塚敬二郎、海老原教子、海老原美夫、
大勝学、小林みどり、佐久間博文、柴野耕一郎、
志村佐治、鈴木敬、中川敏子、新部泰治、藤掛保
司、藤田敏恵、船木数樹、持丸順彰

4月29日~5月1日(金~日) 東京都 三宅島

参加: 25名 天気: 晴

クロアシアホウドリ オオミズナギドリ ハシボ
ソミズナギドリ オーストンウミツバメ カワウ
ウミウ ゴイサギ アマサギ ダイサギ チュウ
サギ ミサゴ トビ ノスリ サシバ ハヤブサ
コジュケイ キジ オオバン ダイゼン キアシ
シギ チュウシャクシギ シロカモメ ウミネコ
ウミスズメ カンムリウミスズメ カラスバト
キジバト ホトトギス アマツバメ コゲラ ツ
バメ イワツバメ サンショウクイ ヒヨドリ
モズ ミソサザイ コマドリ イソヒヨドリ ア
カコッコ ウグイス イイジマムシクイ キビタ
キ オオルリ ヤマガラ シジュウカラ メジロ
ホオジロ ホオアカ アオジ カワラヒワ スズ
メ コムクドリ ハシブトガラス (53種) 宿である
新鼻荘の庭では、亜種オーストンヤマガラ等が大
歓迎。大路池、アカコッコ館周辺では、アカコ
ッコ、イイジマムシクイ、カラスバト、亜種タネ
コマドリなどの定番と、ミサゴ、アマサギ等が見
られた。伊豆岬灯台付近では、ホオアカ、チュウ
シャクシギ、ダイゼン等。村営温泉「ふるさとの

湯」に行ったら、偶然にも三宅村長と会い、歓談できた。早朝探鳥会は5時30分からの予定が、早い人は4時30分前からスタート。色々な野鳥の声のシャワーを楽しんだ。帰りの船では、珍しくクロアシアホウドリが出現して大喜び。(藤掛保司)

5月1日(日) 幸手市 宇和田公園

参加: 19名 天気: 小雨~曇

カワウ ダイサギ チュウサギ アオサギ カルガモ コガモ チョウゲンボウ キジ コチドリ タカブシギ イソシギ タシギ シラコバト キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ツグミ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) (番外: ドバト) 小雨の中での出発。先ず、久々のシラコバトが出迎えてくれた。その直後、水路を横切ってカワセミがご挨拶。公園の中に入るとシメがまだ残っていた。田んぼに出る頃には雨が止んでくれた。替わりに今度は風が強くなってきた。しばらく行くと、畔の上に止まっているタカブシギに会えた。これも久しぶりだ。河原ではオオヨシキリ、セッカが忙しそうにさえずり、初夏の装い。最後にもシラコバトが出て皆を喜ばせてくれた。(中里裕一)

5月5日(木、休) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 56名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ ハシビロガモ スズガモ バン メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ ハマシギ キアシシギ イソシギ チュウシャクシギ セイタカシギ ユリカモメ コアジサシ キジバト コゲラ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ シジュウカラ メジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) (番外: ドバト) 震災後のトイレの復旧がぎりぎり間に合ったけれど、午前中はシギ・チドリが少なく寂しい。潮干狩りが中止となった三番瀬でのんびりしているらしい。2時頃には飛んで来ますと予告したら本当に来て、残った人たちで楽しんだ。(杉本秀樹)

5月8日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 25名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ オナガガモ キンクロハジロ トビ チョウゲンボウ キジ クサシギ イソシギ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス セッカ キビタキ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ コムクドリ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) (番外: ガビチョウ) 緑と爽やかな風。気持ちが良い。ここでは久しぶりのコムクドリを見ることが出来て良かった。明戸堰からはまだ北へ帰らない2羽のコハクチョウの若鳥が見られた。(大澤 祐)

5月8日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 51名 天気: 晴

カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ チョウゲンボウ キジ クイナ バン コチドリ ムナグロ キアシシギ コアジサシ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス オオヨシキリ エゾムシクイ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) (番外: ドバト) ムナグロは日により多かたり少なかり。で、「今日が少ない日にならないように」と願いつつ出発。出発間もなく1羽のムナグロが出るも、後が続かず。中間点でやっと30±羽のムナグロと4羽のキアシシギが出て、ジックリ観察。その後は、婚姻色のコサギ、貴重な1羽のコアジサシ、じっと木に止まるカワセミも出てくれて、行事事案内の通りとなって安堵した。

(田中幸男)



おお! ムナグロだ~



●メジロの愛玩飼養捕獲全国で禁止に

全国野鳥密猟対策連絡会(京都市)の呼びかけに応じて、本年 1 月 16 日付けの当会役員会で議決し、環境大臣あて愛玩飼養制度の廃止要望書を提出したことを 3 月号本欄でご紹介しました。

7 月 14 日付け読売新聞によれば、環境省の鳥獣保護に関する指針改定案が、13 日に開かれた中央環境審議会野生生物部会です承され、愛玩飼養が認められていたメジロの捕獲も、来年 4 月から許可されないことになったとのこと。埼玉県内ではすでにメジロの捕獲は認められていませんが、今回の措置により全国で捕獲禁止になります。

●日本野鳥の会連携団体全国大会に参加

7 月 2 日(土)～3 日(日)、神奈川県川崎市内で開催された大会に、埼玉からは藤掛保司代表が参加。公益財団法人移行経緯の説明、鳥インフルエンザ・洋上風力発電に関する講演、震災被害状況など、様々な情報交換などとともに、夜は全国から集まった仲間たちとの懇親につとめました。

●関東ブロック団体からの連絡

【日本野鳥の会神奈川】 8 月 1 日変更。
「日本野鳥の会神奈川」は「日本野鳥の会神奈川支部」に、「代表・副代表」は「支部長・副支部長」に、「会報」は「支部報」に、それぞれ戻しますと、7 月 31 日付けお知らせ。

●ふなばし三番瀬海浜公園探鳥会

計画段階では 8 月 28 日(日)に予定が入っていましたが、未だに公園再開の見込みは立

たず浜辺への立ち入りも禁止されたままであるため、普及部と編集部などで協議して、8 月号行事案内欄への掲載を取りやめました。

●会員の普及活動

7 月 10 日(日)に開催された鴻巣市赤見台自治会主催の自然観察会で、橋口長和普及部長と榎本建七リーダーが指導しました。

●会員数は

8 月 1 日現在 1,979 人。

活動と予定

7 月 9 日(土) 8 月号校正(海老原美夫・大坂幸男・小林みどり・藤掛保司・長嶋宏之・山田義郎)。

7 月 17 日(日) 役員会(司会:楠見邦博、各部の報告・関東ブロック協議会議題など)。

7 月 19 日(火)「埼玉会報だけの会員」に向け 8 月号を発送(倉林宗太郎)。

●9月の予定

9 月 3 日(土) 編集部・普及部・研究部会。

9 月 10 日(土) 10 月号校正(午後 4 時から)。

9 月 17 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。

9 月 18 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

編集後記

今年も 7 月末までは毎朝カッコウの声で目が覚めた。今の楽しみはチョウゲンボウ。この時季に出てくるセミをねらって、朝と夕方に♂♀幼鳥各 1 が集まって来る。(山部)

職場で毎年 8 月中旬まで聞こえていたカッコウの声が途絶えて久しい。托卵相手だったオナガが営巣しなくなったことが原因で、それはカラスの急増と関係があるように思っているのだが。(森本)

しらこぼと 2011 年 9 月号(第 329 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル
 日本野鳥の会 会員室 TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社